

伊太利愛も人間情緒の異常の高調に發して居た人間は高等なる目的に向つて猷身的努力をする時には矢張感情情緒から出發することが稀ではない。随つて純眞の愛より發足した人間の偉業の存在することは首肯することが出来る。その

時の人間の心理は緊張力以上に緊張した時である。そんな時には單純なる人間の經驗が他人を誤解せしめるやうな神秘的哲學となり得ることも首肯出来る。ダンテのベアツリチエに對する愛も實行的見地から見れば空虚なものである。

今日の人であるならば人間の衝動が如何に洗練されて居らうとも人間の精神が同じ人間に對する情的熱心によつて神の眞理を見出し得ると直に想像するのは一つの幻覺たるを免れない。斯る捕捉し難き螢火を追ふ後人は足を踏み外づして泥土に陥り易いことも明白である。斯る愛の理想が理性的でありとすればそれは想像的空想的理性である。然しダンテの場合に於ては特種條件の許に實際的な卓越せる効果を産んだので

ある。今日萬人の模倣すべきものではないことは明かである。斯く觀察し來る時上述の案内者の冷評も強ち無理からぬ處がある。

雜報

○鼈甲の話

海龜は肉がくえるけれども其甲は使用されない、しかし瑤瑁は肉は食えぬかはりにその甲が用ひられる世界での鼈甲産地は西印度で同地方でタイマイは常時捕獲される、其方法は雌龜を捕へることで、雌は産卵の必要で島嶼又は海灣の砂地へ這上つてくる、夫を見付けて仰向にひつくりかへすと、もう起返る力が無いから、容易にとれる雌は通例濱邊へは上つて來ないから、海に浮いてゐる所を杖モリで刺してとる、鼈甲には其の傷のついたまゝ輸入されるものが多い

此龜の背甲は最も堅く Carapace と呼ばれ幾枚もの甲良が重なりあつて出來てゐる、龜を捕へて一旦殺したのち之を沸騰せる湯の中で煮沸すると、甲良は離ればなれになる、この離れたものを Soft-shell と云ふ。

背甲の周圍には鋸齒狀の小さい蹄形の甲良が並んで甲の外廓を成して居る、商人は之を hoof (蹄) とよんでゐる、夫からこの蹄形甲良にながつて下腹を成してゐる甲良は Yellow-belly と云ふ、背甲を組成する各甲良の数は十三枚と極まつてゐてその一枚の成育點に達したものは約長八吋巾十三吋で

ある、重さ一枚で半封度、

大形背甲は一見傷多く幾分透明色で汚れた苺色の屋根スレート
の觀がある、背甲の中には弾力性があつて撓めると曲る
ものもあるが、上質品は堅牢でそんなことはない、蹄形甲は
小形圓型、又腹甲は薄色の膠板に似て居る上等品は赤苺色で
斑のある暖か味ある色合をしてゐる、倫敦は世界で鼈甲取引
の中心地であつて隔月に競賣される、一回、五百箱五噸内外
が取引に上つて相場は一封度十志乃至三十五志位であるが、
桶上物になると三百志にも上る。

眼鏡棒、櫛、刷子、毛髮留櫛、卷烟草用パイプ、烟草入等
に用ひられるが近頃世界不況で其製品の賣行はわるい、特に
婦人頭髮に關する流行の變遷で裝飾用品は殆ど廢減に歸し、
類似品のセルロイド、ガラス等の安價品が安價で、眞物を
凌ぐ新製品が出現して鼈甲の用は大打撃をうけてゐる、一九
二九年ロンドンで取引された産地は左の如くである一年約二
十六噸に上つた。

- 西印度諸島及ナツサウ 二〇八噸
- 濠洲シンドネト 四八
- シンガポール 四七
- ガンジバル 三三
- ボンベイ、波斯灣 三〇
- マウリシアス 二〇

○マルセイユ中心の航空運送 一九三一年上半期に

雜報

- 於けるマルセイユ・マリニアース空港發着の飛行機数は二千
百六十二臺運送貨物二十二萬キログラム、郵便物約五萬キロ
グラム、旅客三千五百人に達し貨物及郵便物は半年間にして
前年一年間の數量に近づいてきた、その各航路線は左の如し
- 一、マルセイユ、バルセロナ、カサブランカ往復各一八〇回
 - 二、マルセイユ、アルジェー間往復 各 一四〇回
 - 三、マルセイユ、リオン、パリ間往復 各 一九六回
 - 四、マルセイユ、アジャクシオ、チュニス間往復各一五二回
 - 五、マルセイユ、ナポリ、桶東間往復 往 二八回
復 二六回
 - 六、マルセイユ、ジュネーブ、スツトガルド往復 一〇六回
 - 七、マルセイユ、バルロナ間往復 各 一一〇回
 - 八、マルセイユ、ジェーア間往復(伊太利) 八六回
 - 九、マルセイユ、バルセロナ間往復(伊太利) 八〇回
 - 一〇、マルセイユ、テイジョン間往復共 各 六回
- 合計 二一六二回

○我國に於ける山林の利用

本多博士が最近に提唱された多角形林業の必要は、傾斜地の多い山の多い我國民の
傾聽すべき點が多い、同博士は曰く山林に栗、柿、胡桃、柑
橘、枇杷、梨、杏、李、無花果、葡萄其他の果樹を仕立
てたい、由來多くの果樹は元々山林内に自生したものである
のに、餘りに人工的に平坦地の畑に仕立て、餘りに多數一所
に不自然に仕立てすぎて却つて失敗してゐる、紀州蜜柑が大

抵山地に植えられて爲めに其勢力があり、房州や駿河の山腹に於ける枇杷、中國に於ける桃、梨、岐阜静岡に於ける富有柿、次郎柿、山形青森地方の林檎すべて多く山腹地傾斜に立つるものゝ愈發達しつゝあるのを見習ひたい。

山地の栽培地は一二間の幅に水平的な細長い段々を作るか、一二坪づゝの塊狀の段をつくつて其上に果樹をうる時は、最も安全で肥培耕耘が出来る、岡山縣眞庭郡美和村餘野では採草地に栗をつくり年々一萬圓以上を收入し、岐阜縣山林會では明治四十三年以來栗苗を養生して無償下付を行ひ、過去二十一年間に七十七萬餘本を下げた、西濃地方では一反歩最高九石平均五石、三百圓乃至五百圓といふ收穫である。伊太利では栗を六七間置きに栽え其結實不良となつた時は高接法で良種を接木し一ヶ年の栗の收穫六十萬圓に達し、栗材の産額も亦年々一千萬圓に達するといふ。

第二に山林に桑を仕立て、林間で養蠶をするやうにしたいたい我國の養蠶のための桑は五十萬町歩であるが改良を要するもの二十萬町歩に上つてゐる、山林は平地ほど霜の害がない、養蠶の方法も改良されて今日は條桑飼育が研究されるやうになつたのであるから旁々この方面の研究を實行してみたい。

第三に山に茶をうることで、臺灣では三井の茶園の如き山地でやつてゐて成功した、つぎに桐、漆、胡桃、黃楸、樟等山で仕立てるべきものは多い。牛や豚や馬や鳥を林間で飼ふことも、今日以上に研究されねばならない、竹と筍の利益蒟蒻、黃蓮、人參、山葵等の山間栽培をはじめ菌蕈、五倍子

數へ來れば、山林に於て作くらるべき果樹は甚だ多い、地方に於てその風土に適した林業として大に注意改良をはかるべきであらうと。

○本邦に於ける佛國海岸松

砂丘を防止し、松脂テ

レビンの原料を供給する佛國海岸松は過去四十年間に我國に於ても栽培せられて相當の繁茂がある、我國には和泉砂岩、花崗岩質砂岩等の分布がひろく酸性土壤であるために各種有要の植物の繁茂に適しない區域十數萬町歩に上るから、かうした處に右のバインを栽培することを奨励する、現在右の松の生えてゐる所は左の如くである。

- 一、兵庫縣三原郡神代村、賀集墓地、現在立木樹齡四十二年、其徑七寸一尺二寸、高八間。
- 二、大阪泉南郡下莊村泉福寺境内松林、同上樹齡三十九年
- 三、石川縣能美郡安宅村國有林。
- 四、石川縣能美郡御幸村大字三味谷國有林。
- 五、兵庫縣神戸市諏訪山鎗山山麓。
- 六、新潟市公園、立木十二本。
- 七、大阪府泉南郡下莊内字箱作岡崎氏山林。
- 八、愛媛縣周桑郡桶河村永納山國有林。
- 九、愛媛縣越智郡櫻井町沖浦海岸林立木數百本。
- 一〇、同國同郡朝倉村字巳塚、組合林立木數百本
- 一一、大阪泉南郡下莊村字箱作生田伊作山林立木五千本。
- 一二、高知縣高岡郡上ノ加江川灘山國有林立木二百本。

右のごとく既に一つの森に佇立てたものも出来てゐるのである。和泉砂岩の地質が最もよいやうである。

○第五十五回文檢地理科豫備試験問題

一、政治的境界としての山脈の價値につき實例をあげて論述せよ。

二、山陰地方の地理的特性を論述せよ。

三、經濟地理の見地よりアメリカ合衆國を論述せよ。

四、濠洲に於ける氣候と産業との關係を論述せよ。

五、左の諸項につきて述べよ。

イ、ネヂド

ロ、ライオン軍備禁止地域

ハ、南米アンデス山中の高地聚落

ニ、サハラ沙漠の横斷路。以上四時間

同本試験問題

一、筆答問題

一、岡山平野及讃岐平野につき地誌的に説明せよ。

二、ヨーロッパの内陸水路網と鐵道との關係につきて記せ。

三、聚落の發生及び發達と商品市場との關係を論述せよ。

四、國家と國家的民族との關係及び民族國家の意義につきて説述せよ。以上四時間

注意 筆答は問題毎に別紙に縦書に認むべし。

問題毎に成るべく地圖を添ふべし。

二、口述問題 (第一日)

第一室 實習用地球儀により東京ロンドン間の距離を測定せ

質疑 應 答

しめ、大圏航路につきて説明せしむ。
第二室 フランス西南部の二十五萬分一人口密度圖及地形圖をしめし、地形の性質及び之と人口分布との關係を説明せしむ。

第三室

相模原地域の地圖を示めし同地域の地理的開拓過程及び之に關聯せる地形につきて説明せしむ。

第四室 地理學の概念につきて説明せしむ。

第五室 濃尾平野の一部の地圖を示めし聚落地理に關して説明せしむ。

(第二日)

委員會全部一室に集合して、滿洲を含む地圖三種を示めし、滿洲に於ける鐵道につきて、利權の所屬、經濟地理との關係、地形との關係を説述せしめたり。

質疑 應 答

問。レニングラード港。

答。レニングラードはネバ河口に人工を加へ、運河を以てクロンスタットに通じたる帝政露國の築いた第一の良港であるが、勞農政府の手に入つてから其改修擴張は著々として行はれた、この港の背景として、貨物を吞吐するものはマリンスカヤシステマ運河である、この運河はウオルガ河の上流ルイビンスクよりセキシーナ河を溯りペロオーゼロ、オネガ、ラドカ等の大湖を通じネバ河に出で、レニングラードに達し